

ヒューストン市・ノースバンクーバー市公式訪問報告書

令和7年10月19日(日)～25日(土)

千葉市

市民局市民自治推進部国際交流課

1 訪問の成果

(1)アントレプレナーシップ教育特別プログラムの受入れに関する調整及び関係構築

①アントレプレナーシップ教育に係る相互協力に関する覚書の締結

千葉市とヒューストン日米協会にて、千葉市及びヒューストン市のアントレプレナーシップの醸成及び次世代の起業家育成について、相互の協力関係を確立することを約束する覚書に調印した。【参考:16～17ページ】

②ヒューストン大学との関係構築

令和8年度千葉市から派遣する高校生のアントレプレナーシップ研修の受け入れについて快諾いただくとともに、ヒューストン大学の大学生の千葉市への派遣について今後検討したいとお話をいただいた。【参考:7～8ページ】

③高校生の視察対象候補となる施設との関係構築

令和8年度千葉市から派遣する高校生の視察候補先である、ヒューストン市役所、在ヒューストン日本国総領事館、グリーンタウンラボ・ヒューストン、アイオン地区を訪問し、視察を依頼したところ、いずれの施設からも高校生を受け入れることに快諾いただいた。【参考:6・8・14～15ページ】

(2)姉妹都市交流

長年にわたる交流の絆を礎に、両市がこれからも友好と親善を深めていくことを確認。

①ヒューストン市

ヒューストン市長が、訪問を歓迎する「姉妹都市デー」の宣言を行い、将来の両市の友好親善を確認する旨の宣言文書を受贈した。【参考:9～11ページ】

②ノースバンクーバー市

姉妹都市提携55周年を記念して、これまで青少年交流等で培ってきた友好関係を礎として、さらなる交流を発展させることを両市長が確認し、友好関係確認書に署名した。【参考:23～28ページ】

(3)市政の課題に対する調査及び意見交換

①外国人住民の地域社会への適応促進

カナダの移民に対して定住支援プログラムに取り組む市民活動団体と意見交換を行い、国と自治体が適切に役割分担を行いながら、在住外国人が地域社会に円滑に適応していく必要性を確認した。【参考:21～22ページ】

②みなとのまちづくり

ノースバンクーバー港のウォーターフロントエリアを視察し、港湾資源を活かした景観整備や多様な商業・宿泊施設の展開など、旅行者と地域住民の双方に親しまれる空間づくりを学び、本市の千葉中央港・棧橋エリア活性化施策の参考とした。【参考:19ページ】

③文化振興

ヒューストン美術館を訪問し、美術品の展示や施設設備の視察を行うとともに、ヒューストン美術館が所有する広範な所蔵品と、千葉市美術館の収蔵作品を通じた交流について意見交換を行った。【参考:7ページ】

2 訪問の目的

千葉市は、米国・テキサス州ヒューストン市およびカナダ・ブリティッシュコロンビア州ノースバンクーバー市と、これまで青少年交流などを通じて友好親善を深めてきた。

また、令和8年度には、ヒューストン市において「アントレプレナーシップ教育特別プログラム」の実施を予定しているほか、本年はノースバンクーバー市との姉妹都市提携55周年にあたる。

これらを踏まえ、ヒューストン市におけるアントレプレナーシップ教育の研修先等の現地視察及びこれまで培ってきた両市との友好関係をさらに発展させ、交流を一層促進することを目的に、市長・議長等で結成する公式訪問団が両市を訪問することとする。

3 訪問先の概要

(1)ヒューストン市

姉妹都市提携 1972年(昭和47年)10月24日

ア 人口 約230万人(2020年国勢調査)

イ 市域面積 約1,500平方キロメートル

ウ 公用語 英語

エ 概要

テキサス州南東部、メキシコ湾から運河で約80kmさかのぼったところに位置するテキサス州最大・全米第4位の人口を誇る大都市である。

石油・天然ガスなどのエネルギー産業や合成ゴムをはじめとする石油化学産業、綿花・小麦などの農畜産加工業が盛んであり、また、最近ではIT産業、医療サービス産業、航空宇宙産業等に多様化が進んでいる。

市内には、スペースシャトル計画のNASAジョンソン宇宙センターやMDアンダーソンがんセンターなど世界的に有名な機関がある。

また、貨物取扱高では米国第2位、大きさでは世界第10位を誇る国際港、ヒューストン港を擁している。

気候は亜熱帯性で、最高気温が摂氏32度を超える日が年間約100日もあり、冬は短く、寒さはさほど厳しくない。

オ 姉妹都市提携のきっかけ

1972年(昭和47年)3月、日本貿易振興会の招きでヒューストン市長が来日した際、日本の都市との姉妹都市提携の話が持ち上がり、港・工業・農業など都市の性格が非常によく似ていることから千葉市が選ばれ、提携の運びとなったもの。

(2) ノースバンクーバー市

姉妹都市提携 1970年(昭和45年)1月1日

ア 人口 約5万8千人(2021年国勢調査)

イ 市域面積 約12平方キロメートル

ウ 公用語 英語、フランス語

エ 概要

カナダ西海岸に面するブリティッシュ・コロンビア州のメトロバンクーバーに包含される都市の一つで、1907年に市制が施された。その歴史は避暑地として始まり、景色の良いバンクーバー港を見晴らす緑豊かな住宅都市である。

ノースバンクーバー市はバンクーバー港の北側に位置し、ブリティッシュ・コロンビア州最大の国際商業都市バンクーバー市とは2つの橋で結ばれ、バンクーバー市のベッドタウンとなっている。木材業が盛んで、旧来の造船、木材等の貨物積出し業に加え、最近では多くの商工業が発展している。現在、ウォーターフロントの広大な地域を開発中で、雇用機会の拡大や、市の繁栄が見込まれている。

気候は、海流とロッキー山脈の影響により、緯度の割には比較的温暖であり、冬でもゴルフ、テニス、セーリングが楽しめる。

オ 姉妹都市提携のきっかけ

両市のライオンズクラブの姉妹関係から市民対市民の友好関係をより深めるために姉妹都市提携を結ぶこととなり、1970年1月1日に千葉市制50年を記念して姉妹都市を締結した。

4 公式訪問団

No	氏 名	役職等	備 考
1	神谷 俊一	市長	
2	松坂 吉則	千葉市議会 議長	
3	津村 昭太郎	(公財)千葉市国際交流協会 理事長	
4	齋木 久美子	市民自治推進部長	
5	寺井 隆	国際交流課長	
6	杉田 博儀	秘書課長	
7	安里 加菜	国際交流課 担当	
8	ケイティ・セクストン	国際交流課 国際交流員	
9	本吉 哲也	雇用推進課長	ヒューストン市 のみ同行
10	西田 聡	雇用推進課 担当	ヒューストン市 のみ同行
11	阿部 智	千葉市議会議員	ヒューストン市 のみ同行
12	石川 弘	千葉市議会議員	
13	岳田 雄亮	千葉市議会議員	
14	佐久間 英利	千葉商工会議所 会頭	ヒューストン市 のみ同行
15	栗生 雄四郎	千葉商工会議所 副会頭	ヒューストン市 のみ同行
16	富澤 洋	千葉商工会議所 副会頭	ヒューストン市 のみ同行
17	高岡 隆司	千葉商工会議所 副会頭	ヒューストン市 のみ同行
18	松浦 良恵	千葉商工会議所 常務理事	ヒューストン市 のみ同行
19	薮崎 敦志	千葉商工会議所 総務部会員交流課長	ヒューストン市 のみ同行
20	小幡 寛	千葉中央ライオンズクラブ 会長	ノースバンクーバー市 のみ同行
21	荒井 明	千葉中央ライオンズクラブ 前会長	ノースバンクーバー市 のみ同行
22	塚田 敏美千	千葉中央ライオンズクラブ 会員	ノースバンクーバー市 のみ同行

5 行程

(1) ヒューストン 10月19日(日)～22日(水)

月日	場所	視察先等
1日目 10/19 (日)	日本	羽田空港 出発
	ヒューストン市	ヒューストン・ジョージブッシュ空港 到着 ・ ポスト・ヒューストン(視察)
2日目 10/20 (月)	ヒューストン市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在ヒューストン日本国総領事館(総領事と会談) ・ ヒューストン美術館(視察) ・ ヒューストン大学(アントレプレナーシップ関係者とのランチミーティング) ・ ヒューストン市役所(ヒューストン市長表敬訪問) ・ 歓迎レセプション(ヒューストン市・ヒューストン日米協会共催)(姉妹都市デー宣言、記念品交換)
3日目 10/21 (火)	ヒューストン市	<ul style="list-style-type: none"> ・ テキサス・メディカルセンター(視察) ・ ハーマン・パーク(日本庭園視察、庭園管理者とのランチミーティング) ・ アイオン地区内 グリーン・タウン・ラボ(視察) ・ アイオン地区内 ディストリクト(視察) ・ 答礼レセプション(在ヒューストン日本国総領事・千葉市長共催)
4日目 10/22 (水)	ヒューストン市	ジョージブッシュ空港 出発

(2) ノースバンクーバー 10月22日(水)～24日(金)※帰国:25日(土)

月日	場所	視察先等
4日目 10/22 (水)	ノースバンクーバー市	バンクーバー空港 到着 ・ 歓迎レセプション(ノースバンクーバー市主催)
5日目 10/23 (木)	ノースバンクーバー市	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノースバンクーバー港(港湾局の船で湾内視察) ・ ウォータフロント、Chiba Gardens(視察) ・ シップヤード(ノースバンクーバー市主催の昼食会) ・ ノースバンクーバー市役所(カナダの移民定住支援プログラムを行うNPOとの意見交換、友好関係確認書調印式) ・ 答礼レセプション(千葉市主催)
6日目 10/24 (金)	ノースバンクーバー市	バンクーバー空港 出発
7日目 10/25 (土)	日本	羽田空港 到着

6 訪問の概略

《1日目》10月19日(日)

日本からの移動、到着後、ポスト・ヒューストンを視察。

ポスト・ヒューストンは、ヒューストンのダウンタウンに位置する文化、食、ワークスペースのハブであり、旧アメリカ合衆国郵政公社の施設を再利用した複合施設を都市空間の再生事例として視察した。



外観

施設内部を視察

《2日目》10月20日(月)

①在ヒューストン日本国総領事館

在ヒューストン日本国総領事館の長沼善太郎総領事と会談を行い、両者の対面は、長沼総領事が令和6年3月に着任時の来葉で神谷市長と会談して以来となった。

長沼総領事から、最近のテキサス州の情勢についてご説明いただいた。神谷市長からは、令和8年度に、千葉開府900年記念事業「CHIBA CITY INNOVATORS ACADEMY」の一環としてヒューストン市に本市の高校生を派遣し、アントレプレナーシップ教育の研修を実施するにあたり、受入を調整している企業・機関への力添えを依頼し、快諾いただいた。



会談中の様子

総領事と

②ヒューストン美術館(MFAH: The Museum of Fine Art Houston)

ヒューストン美術館は全米屈指の規模の美術館で、世界各国の6,000年前から現代に至る様々な作品を収集しており、その収蔵品は60,000点近くにのぼる。

青少年交流事業で千葉市からヒューストン市へ派遣された生徒が訪問する定例の見学先であり、派遣生が学びを深めている環境の一端を確認することができた。また、千葉市美術館の展示及び本市の文化芸術施策の参考とするため、ブラッドリー・ベイリー博士の案内のもと、アメリカからイスラム、アジアの美術品展示や施設設備について視察を行った。視察では、ヒューストン美術館が所有する広範な所蔵品と、千葉市美術館の収蔵作品を通じた交流について、意見交換を行った。



美術館



説明を受ける市長

③ヒューストン大学(UH: University of Houston)

ヒューストン大学は、1927年に設立され、1934年に4年制大学となったテキサス州立の総合研究大学で、学部・大学院の学生数は合計約47,000人を超える全米有数の大規模校である。C.T.バウアー経営学部のウォルフ・アントレセンターは、米国における学部生向け起業家プログラムで2007年以降トップ10入りし、2019年から7年連続で1位を獲得している傑出したプログラムを実施している。

同センターのクック・エグゼクティブディレクターらから、同センターの3つの取組み(Cohort、Campus 及び Community)について説明を受けた。同センターでは3つの取組みを通して、ヒューストン大学の学生はもとより、地域の高校生などへのアウトリーチも含め、約40の教育プログラムを包括的に展開しており、これらの取組みにより、大学内だけでなく、地域における起業家精神の涵養に貢献しているとのことであった。また、教育プログラムの受講者数、起業家の輩出数やメンター数などの実績に基づき、ウォルフ・アントレセンターの教育プログラムが全米第1位の評価を受けている背景には、このような質の高い多様な授業だけでなく、生徒たちの学びをサポートする600人を超える地域ビジネスリーダーたちによるメンター支援が大きく貢献しているとのことだった。地域内での産学官の連携が重要なファクターとなることを改めて学ぶことができ、本市においても、スタートアップ・エコシステムの枠組みを活用し、起業家間の交流や投資家・支援機関とのマッチング機会を創出

することで、地域の多様な主体による起業家支援が新たなスタートアップを生み出していくサイクルを活性化させていきたい。

また、令和8年度に、千葉市の高校生がヒューストン市で受ける研修プログラムについて協議したところ、対象者の知識やこれまでの経験の積み重ねの状況を勘案し、短期間で充実した内容となるよう、千葉市の高校生向けのプログラム提供についてご快諾いただき、さらには今後、ヒューストン大学経営学部等の学生を千葉市へ派遣することで、アントレプレナーシップ教育の双方向での協力関係の構築について検討したいとの提案をいただいた。

また、起業家を輩出していく上で、学生のどのような資質を重視しているか質問したところ、財務や会計学のようなテキストで学ぶことができる知識も必要であるものの、「起業への情熱」や「リスクをとることを恐れない精神」をもつことが最も重要であるとの説明を受けた。



ダナ氏による説明



質疑応答

④ヒューストン市役所表敬訪問

2024年1月に第63代ヒューストン市長に就任したジョン・ホイットマイヤー市長と神谷市長が初めての会談を行った。ホイットマイヤー市長からの歓迎の言葉に続き、神谷市長からは、これまで50年以上に渡って続いている両市の交流に対するご支援・ご協力への感謝を伝えるとともに、来年度に予定しているアントレプレナーシップ教育研修の実施にあたっての力添えを依頼し、快諾いただいた。



ホイットマイヤー市長との対面



会談中の様子



ヒューストン市議会の議場視察

⑤歓迎レセプション(ヒューストン市・ヒューストン日米協会共催)

ヒューストン市役所1階レガシールームにて、公式訪問団のヒューストン市訪問を歓迎するレセプションを開催していただいた。ホイットマイヤー市長により公式訪問団の訪問を歓迎し、当日を祝す「姉妹都市デー宣言」が出席者一同の前で行われた。この宣言は、青少年交流プログラムや、ハーマン・パーク内の日本庭園を通じた文化紹介などによって、両市民の相互理解が深まっていることを認識し、文化・経済など様々な分野で築かれた長年の関係を大切にしていることを宣言し、公式訪問団の来訪を歓迎する内容となっている。

また、記念品の交換では、本市は大賀ハスの金箔格子絵を、ヒューストン市からは姉妹都市デーの宣言文書が贈られた。その後、神谷市長からは、ホイットマイヤー市長を含めた出席者に対し、千葉市の概要、産業、観光振興などについて紹介を行い、本市への理解を深めていただくことができた。

続いて、今年6月に青少年交流プログラムで千葉市を訪問した生徒4人から、ホームステイ中のステイファミリーとの交流、日本文化への理解、そしてプログラムを通じた自身の成長などについて発表があり、本プログラムが有意義なものであることを、出席者に改めて伝える機会となった。このほか、会場の展示スペースでは、富嶽三十六景の版画をはじめ、これまで千葉市から寄贈した記念品が展示されていることを確認した。

レセプションには、ヒューストン日米協会(JASH)をはじめ、青少年交流事業で千葉市を訪れているリバー・オークス・バプティスト校(River Oaks Baptist School:ROBS)の関係者や、過去の参加生徒及び引率者も出席していたため、本市で同事業を実施している(公財)千葉市国際交流協会の津村理事長と、これまでの取組みの成果や今後の展開について意見を行い、今後の継続的な交流と協力関係の深化につながる機会となった。



姉妹都市デー宣言文書の贈呈



神谷市長による千葉市紹介



ホイトマイヤー市長・青少年交流参加者と



千葉市国際交流協会 津村理事長と
青少年交流参加者の再会

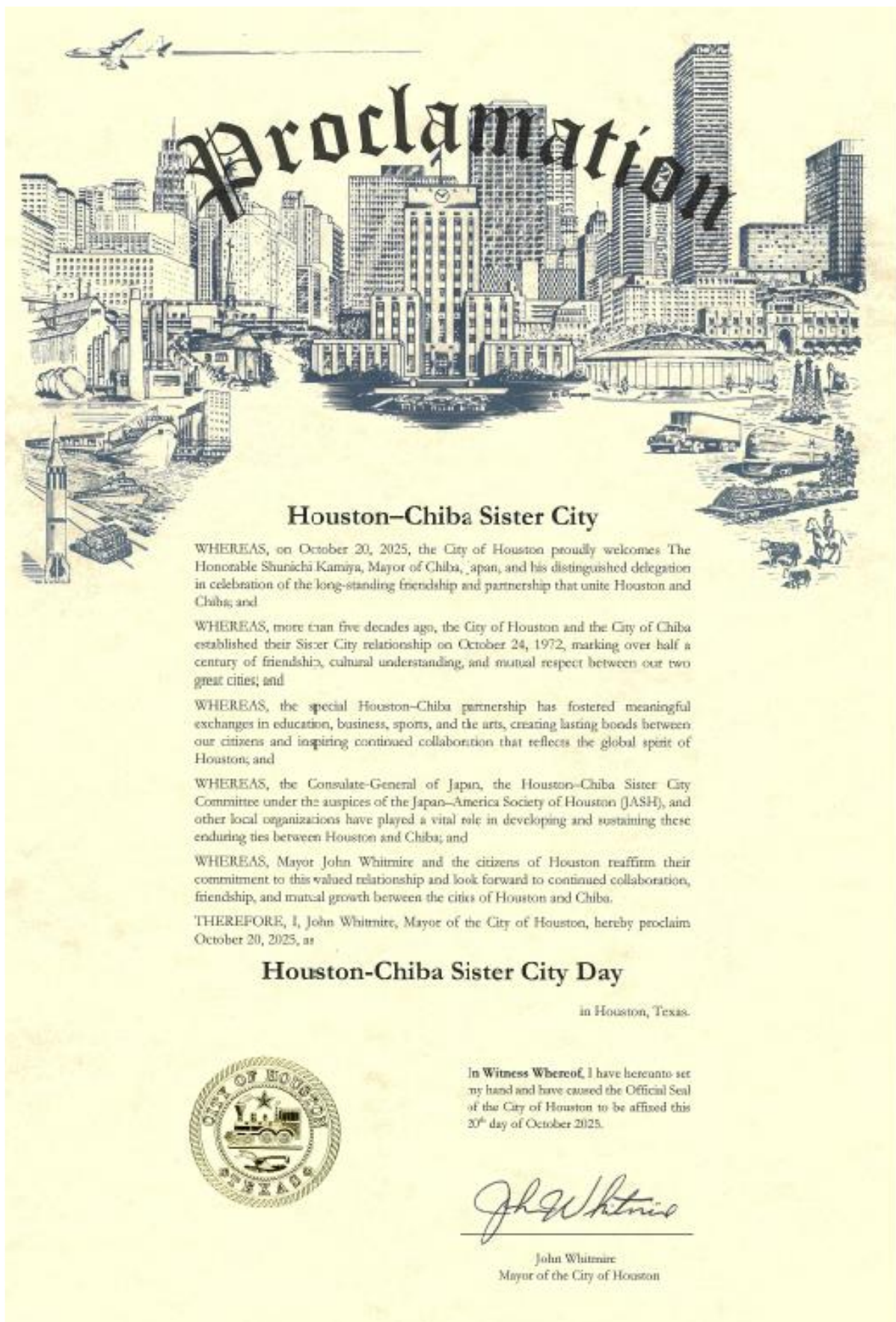


ヒューストン市の姉妹都市を示す
モニュメントの前で市役所関係者と



記念撮影

【姉妹都市デー宣言文書(英語のみ)】



《3日目》10月21日(火)

①テキサス・メディカルセンター(TMC: Texas Medical Center:TMC)内 ヘリックス・パーク

テキサス・メディカルセンターは、1925年のハーマン病院設立に始まり現在も機関の誘致が行われている世界最大級の医療研究機関の集積地。年間1,000万人以上の患者を受け入れ、12万人以上のスタッフが研究・教育・治療の推進に注力し、医療施設、研究施設、医学・看護・薬学の学部等があり、医療とその研究に関わるあらゆる側面がカバーされている。広大なセンター内には医療キャンパス(60以上の医療機関)、「ヘリックス・パーク」(医療機関と商業の連携による医療研究)、「イノベーションファクトリー」(起業家やスタートアップ企業のための施設)の3つのキャンパスがあるが、そのうちヘリックス・パークを視察した。

当施設のインフラ整備や運営経費については、TMC に訪れる方の駐車場使用料収入のほか、企業等からの寄付金や、ベンチャーキャピタルによる投資などにより収益を確保しているため、入居するスタートアップ企業においては、安価に施設利用ができる環境となっている。

また、CDI:Center For Device Innovation のジェイソン・サカモト氏からの説明では、医療機関と連携した医療機器の試作品開発についても、当施設内に製品開発に必要な工作機器の整備に加え、専門エンジニアを3人配置することにより、外注で行う場合と比較し、契約をはじめとした書類手続きを省くことで、試作品開発を迅速に行える体制を整備していることの説明を受けた。

本市においても、医工連携による起業家育成施設として「亥鼻イノベーションプラザ」を設置しており、入居企業に対し、千葉市産業振興財団のコーディネーターが伴走型支援をしているものの、今回の視察を通じて、直接事業に参画し、企業の経営課題の解決や成長を促す人材の配置が成功につながっていることから、同施設入居企業のニーズを把握するとともに、副業プロ人材を紹介するC-BIDのさらなる利用促進に取り組んでいきたい。



外観



商品開発の様子

②ハーマン・パーク(Hermann Park)内 日本庭園でのランチミーティング

ハーマン・パークは1914年にジョージ・ハーマンからヒューストン市に贈られた公園で、市の中心部に位置し、年間600万人の来場者が訪れる。園内には、動物園、野外劇場、自然科学博物館、日本庭園などがある。テキサス・メディカルセンター、ライス大学、博物館地区、住宅街に囲まれており、文化とレクリエーションの拠点になっている。

園内には日本庭園があり、これは世界的に知られた日本庭園デザイナー、故中島健氏の設計により、ヒューストン市在住の日米市民からの寄附、ヒューストン市の補助金、及び日本政府からの寄贈などで建設が進められ、1992年5月4日に日米両国民の友情のシンボルとして開園したもの。園内には昭和61(1986)年に、千葉市が寄贈した雪見灯籠があることを確認した。

今回の訪問では、庭園を管理しているハーマン・パーク保護協会のご招待で、同協会のスタッフや日本庭園を管理する日本人職人(京都府亀岡市から訪米)と、ランチを取りながら日本庭園の管理方法などについて意見交換を行った。

大賀ハスは、平成26年(2014)年のハーマンパーク開園100周年を記念して寄贈され、さらに平成29(2017)年にも分根を行った。市の温室で育成後、ハーマンパークの池に移植されたが、生育が思うように進まなかったため、今後、分根が行われる機会があれば、その寄贈を期待されているとの声もあった。



ランチをとりながら意見交換



日本庭園の職人から説明を聞く市長



大賀ハスの案内表示



日本庭園

③アイオン地区内 グリーン・タウン・ラボ(The Greentown Labs)

グリーン・タウン・ヒューストン

非営利団体グリーン・タウン・ラボは、2011年に設立された、マサチューセッツ州ボストン近郊に本部を置く、世界最大級の気候技術とエネルギー分野のインキュベーターである。

日本の三菱グループ、京セラ、ENEOS、住友化学なども参画している。視察先は、ボストンに次ぐ同団体の2か所目の拠点として、ヒューストン市やライス大学等による積極的な誘致活動の結果、2024年に開設したもの。同団体がこれまで支援したスタートアップ企業数は625社を超え、16,500以上の雇用を創出しており、支援したスタートアップ企業の継続率も89%を誇る。

このラボは、令和8年度に、千葉開府900年記念事業「CHIBA CITY INNOVATORS ACADEMY」の一環としてヒューストン市に本市の高校生を派遣し、アントレプレナーシップ教育研修の受入候補施設の1つとしていることから、有益な研修先となりうるかの確認のために訪問した。

視察案内者(アミール・エコシステム開発ディレクター)から、施設の運営形態としては、入居するスタートアップ企業からのメンバーシップ料、大企業からのパートナーシップ契約料、公的機関からの助成金及び企業等からの寄付金などを原資としており、メンターやエンジニアのほか、ファイナンス担当者など多様な運営スタッフを揃えて、包括的な支援を提供しているとの説明を受けた。

また、支援したスタートアップ企業の高い継続率については、商品化に必要となるハードウェア設備やソフトウェアを無償又は低価格で利用できること、投資家や顧客とマッチングできる機会が提供されていること、スタートアップ企業の本施設への入居審査を厳しく設定していることなどが、このような成果を収めている主な要因となっているとの説明を受けた。

令和8年度の本市高校生の受入については、本市からの派遣の意向があれば受け入れる旨の了承をいただいたため、研修先の1つとして検討をしていきたい。



施設外観



意見交換

④アイオン地区 アイオン(The Ion)(地区名と同名の施設)

アイオン地区は、米国南部のシリコンバレーとなることを目指し、再開発が進められている広大なイノベーション地区(敷地面積:約 65,000 m²)で、市中心部に位置する。

ライス大学とヒューストン市が、デジタル化、脱炭素化等に対応するため、新しい技術へのアクセスやスタートアップとの連携といった産業界からのニーズに応える形で2017年から地区構想を始めた。アイオンはその中核施設で2021年に開設され、これによりアイオン地区が稼働した。アイオンの入居企業・団体数は300以上であり、協業・交流のハブとなっている。

この施設は、令和8年度に、千葉開府900年記念事業「CHIBA CITY INNOVATORS ACADEMY」の一環としてヒューストン市に本市の高校生を派遣し、アントレプレナーシップ教育研修の受入候補施設の1つとしていることから、有益な研修先となりうるかの確認のため、また、ヒューストン市が産学官連携で整備したイノベーション地区の先進的な成功事例であることから、本市の施策の参考とするため視察した。

施設に入居するスタートアップ企業等が、企業内起業家や大学発ベンチャーなど属性が多様であり、また、取り組む分野が多岐にわたることから、派遣される高校生にとって、様々な背景を持つ起業家との交流が期待できるものであることがわかった。

また、マイケル・ケーニツヒ(ライス大学イノベーション推進担当学部長補佐)によると、本施設の特筆すべき点は、スタートアップ企業を支援するための物理的な環境(コワーキングスペース、プロトタイプラボ等)を提供するに留まらず、イベントスペースを活用したピッチイベントやネットワーキング機会の提供に加え、ライス大学の知見を活用した大手企業幹部職員向けの研修プログラムなど、多岐にわたる活動を実施している点であった。

これにより、起業家、投資家、大学関係者、そしてグローバル企業の職員といった多様なセクターが多角的に交流する機会が創出されており、異なる専門分野や組織間の情報交換を促進し相乗効果を生み出すイノベーションハブとして、アイオン地区は好事例を示していた。

また、アイオン地区のエリア開発に当たっては、ヒューストン市による開発エリア内の住民に対する理解促進や生活等支援を受けながら、スタートアップ支援機関の誘致のほか、来訪者用の駐車場整備や、安定した所得収入の確保が難しい学生向けの低コストの住宅提供など、エリア全体の交流人口が高まるような取組みが行われている。

今回学んだ先進的な施設運営、コミュニティ形成、そして多様なセクターが連携する手法などの知見を、本市が今後スタートアップ・エコシステムの形成を促進していくに当たり有益な参考事例として担当部署に対して情報共有する。



視察の様子

⑤答礼レセプション(在ヒューストン日本国総領事・千葉市長共催)

在ヒューストン日本国総領事館の多大なるご協力を得て、答礼レセプションを共催し、日頃より千葉市・ヒューストン市の交流にご支援いただいている皆様に直接感謝を伝えるとともに、今後ともご支援を賜れるようお願いすることができた。加えて、千葉市及びヒューストン日米協会との間で「アントレプレナーシップ教育に係る相互協力に関する覚書」に調印し、取り交わしを行った。

この覚書は、千葉市及びヒューストン市のアントレプレナーシップの醸成及び次世代の起業家を育成するため、相互の協力関係を確立することを約束するものである。この覚書に基づき、ヒューストン日米協会に、令和8年度に千葉開府 900 年記念事業「CHIBA CITY INNOVATORS ACADEMY」の一環としてヒューストン市に本市の高校生を派遣し、アントレプレナーシップ教育研修を実施する際、滞在期間中の総合的なサポート、同年代の生徒とのワークショップの実施、ヒューストン日米協会のコネクションを活かした研修先のピックアップ・予約などを行っていただけることとなった。



長沼総領事の挨拶



神谷市長の挨拶



千葉商工会議所 佐久間会頭の挨拶



覚書の調印

【アントレプレナーシップ教育に係る相互協力に関する覚書】



千葉県及びヒューストン日米協会における
アントレプレナーシップ教育に係る相互協力に関する覚書



JAPAN
AMERICA
SOCIETY OF
HOUSTON

千葉県とヒューストン日米協会は、千葉県及びヒューストン市のアントレプレナーシップの醸成及び次世代の起業家を育成するため、相互の協力関係を確立することを約束する。

千葉県とヒューストン日米協会は、以下の内容に努める。

- 千葉県及びヒューストン市の学生のための起業家精神を涵養する教育プログラムの開発及び実施に関すること。
- 千葉県及びヒューストン市の学生のためのアントレプレナーシップ教育における情報と最良の慣行の共有促進に関すること。
- 千葉県及びヒューストン市の学生を支援する能力と意欲を有する教育機関や企業との協働に関すること。

また、本覚書の内容について疑義が生じた場合、又は変更が提案された場合は、その都度、誠意をもって協議し、解決を図るものとする。

2025年10月21日に誓約を尊重することに同意し、日本語と英語により署名された覚書は、両版ともに等しく正文である。

日本国千葉県

ヒューストン日米協会

神谷 俊一

神谷 俊一
千葉県長

石川 隆次郎

石川 隆次郎
会長代理
内藤 健

松坂 吉則

松坂 吉則
千葉県議会議長

Patsy Brown

パッツィー・ユーン・ブラウン
理事長

《4日目》10月22日(水)

歓迎レセプション(ノースバンクーバー市主催)

ノースバンクーバー市長が、千葉市公式訪問団の訪問を歓迎し、レセプションを開催してくださった。リンダ・ブキャナン市長は、教育委員会委員やノースバンクーバー市議会議員を歴任した後、2018年に現職に就任し、現在2期目。神谷市長との会談は今回が初めてであった。

歓迎レセプションには、ブキャナン市長及び市職員のほか、ノースバンクーバー市議会議員やこれまで青少年交流を担ってきたノースショアライオンズクラブ青少年交流委員会のジョージ・シム委員長、地元団体・企業のゲストなどが出席され、温かい交流が育まれた。



神谷市長の挨拶



ブキャナン市長の挨拶



ブキャナン市長及び市議会議員等と

≪5日目≫10月23日(木)

①ノースバンクーバー港(通称:ロンズデール・キー)の視察

■港湾見学(ボート乗船)

ノースバンクーバー港は、ウォーターフロントの商業・交通ハブで、バンクーバー市とノースバンクーバー市を結ぶシーバスも運行されている。今回は、ノースバンクーバー市の手配により、港湾局の船舶(定員:10人)に乗船し、シップヤードやバラード・ドライ・ドッグ栈橋など、港付近の施設を船上から見学した。

港湾資源を活かした景観に加え、様々な飲食店や物産店、宿泊施設も整っており、旅行で訪れる人々に特別な時間を提供するとともに、地元の人々にも親しまれている場所であり、本市の千葉中央港・栈橋エリア活性化施策の参考としていく。



乗船した船



港湾の様子

■ウォーターフロントエリア

ロンズデール・キーのマーケットやシップヤードなどの商業施設は、遊歩道で結ばれており、中心にはバンクーバー市との間を結ぶシーバス乗り場や、ノースバンクーバー市内を運行するバスの駅が位置している。公園内には犬の散歩をする人も多く、リードを付けなければならない場所や付けなくても良い場所を示す案内板が設置されていた。



犬のリードについての案内板



シーバスやバスの案内表示

■チバ・ガーデン(Chiba Gardens)

ノースバンクーバー市との姉妹都市提携を記念して、1985年に本市からノースバンクーバー市へ石灯籠2基を寄贈した。その後、地元の造園家である伊藤敏正氏が、石灯籠を設置するための日本式庭園の設計を行い、1986年に開園した。近年は、樹木の成長や管理の不足により一部が荒れていたとのことだったが、今年初めからノースバンクーバー市が日本庭園技師に依頼して改修工事を行い、整備が完了し、美しく保たれていた。



日本庭園の改修工事を担当したワキノ氏からの説明



本市が寄贈した灯籠



チバガーデンの門



庭園内の様子

■シップヤード

85,000 平方フィート(約 7,897 m²)を超える商業施設とコミュニティスペースを備え、一年中楽しめるスポット。夏にはスプラッシュパーク、冬には地域最大の屋外スケートリンクを開設し、多くの家族連れが訪れる。この施設内では、ノースバンクーバー市主催の昼食会が催され、ブキャナン市長をはじめ、ノースバンクーバー市議会議員たちと双方の市政課題等に対して意見交換を行うことができた。

②カナダの移民定住支援プログラムを行う団体との意見交換

■サクセス(S.U.C.C.E.S.S)

この団体は1973年に設立、1974年に法人化された、ブリティッシュ・コロンビア州で最大規模の社会福祉機関の一つである。カナダ全土およびアジアに約40か所のサービス拠点を設け、カナダへの移住準備者、一時滞在者、永住者、カナダ国民など幅広い層を対象に支援を行っている。

主な取組みとして、受講資格を有する移民・難民およびその家族に対し、移民定住・統合プログラム(ISIP)の提供、住居・生活情報の案内、言語トレーニング、教育・雇用支援、地域社会への参加促進など、多岐にわたる支援を実施している。

訪問に際しては、クイニー・チューCEO から、提供するサービスや入国前の支援体制について説明を受け、意見交換を行った。

当該団体の運営財源は、カナダ政府(移民・難民・市民権省[IRCC])および公衆衛生庁)が約70%、ブリティッシュ・コロンビア州政府が約30%を助成しており、公的支援により安定した運営が行われている。また、多言語対応が可能な職員を採用するとともに、AIを活用した翻訳サービスも導入している。

移民支援は、入国前からウェビナー(オンライン)による情報提供を実施し、バンクーバー国際空港にサービスカウンターを設置して入国時から支援を開始するなど、切れ目のない体制を整えている。

さらに、①包括的な移民サポート、②文化への適応支援、③地域コミュニティ全体による支援体制を整え、誰もが自分の慣れ親しんだ言語で支援を受けられる環境を構築している。

雇用支援では、キャリア相談、履歴書作成指導、起業支援などを通じて、移民のキャリアアップを後押ししている。また、地域社会に馴染むための生活支援として、ごみの分別・リサイクル、学校・住居・仕事の探し方などの情報を、パンフレット、ウェビナー、SNS等を活用して多言語で発信している。



バンクーバー国際空港内のカウンター

■インパクト・ノースショア(Impact North Shore)

この団体は、1991年に、移民へ1対1の定住支援を提供する団体として発足し、移民の支援やインクルーシブなコミュニティ構築への取り組みを通じて、公平なコミュニティの構築を目指して活動が続けている。発足以降、100名のスタッフにより75,000人以上のカナダ移住者を支援してきた。現在は、移民サービスセンターを通じて、定住、雇用、英語学習、学校における定住支援員(SWIS)、コミュニティとのつながりなど、家族全員に包括的で革新的なサービスを提供し、移民・新規移住者のサポートを行っている。

同団体のウェンディ・マカロック事務局長から、ノースバンクーバー市における移民の現状について説明を受け、意見交換を行った。

カナダ全体の移民率は 23%であり、ブリティッシュコロンビア州では 29%、グレーターバンクーバー圏では 42%、ノースバンクーバー市では 38%に達している。2021 年時点で、同市の移民数は約 22,000 人であり、出身国の内訳はイラン 5,040 人(23%)、フィリピン 2,890 人(13%)、アメリカ 2,175 人(10%)等で、日本出身者は約 1.2%である。

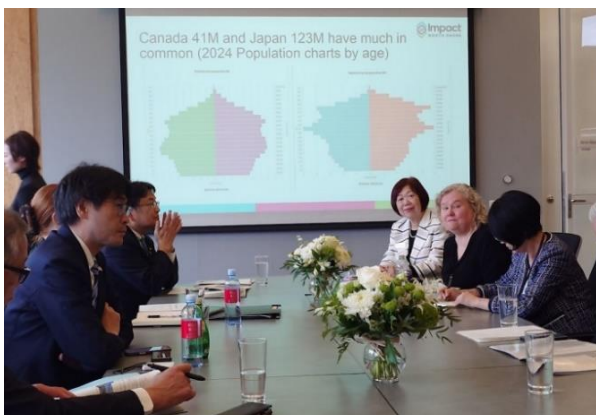
マカロック事務局長によると、カナダ国民の 56%が「移民が多すぎる」と感じている一方で、カナダで生まれた人の約 70%は移民をルーツに持つとされる。また、移民の 13%が人種差別を経験しており、地域社会においては、移民を受け入れることの大切さを地域コミュニティに伝える取組みの重要性が指摘された。さらに、人種差別や社会的に脆弱な立場にある人々の課題に対して、公平な視点から支援を行うこと、そして移民の人生を通じた継続的なサポートが必要であるとの説明があった。

(2 団体との意見交換を受けて)

移民の国と言われるカナダでは、サービスが確立しており、サービスを提供する人員の確保や育成が国や州の支援によって行われていた。一方、日本では、入国後の支援が地方自治体や民間団体の努力に委ねられており、入国前段階からの一貫した社会統合支援や、生活・雇用・教育を包括的に扱う制度設計は十分に整っていないのが現状である。

今後、我が国においては、国が中心となって外国人が地域に適応するための基本方針を示し、入国前から在留・定住までを一体的に支援する体制を構築することが求められる。特に、地方自治体が地域の実情に応じた取組みを行えるよう、国による財政的・人的支援の強化、多言語対応やデジタル技術を活用した全国的な相談窓口の整備が必要である。

今回の訪問では、カナダにおける先進的な取組を通じて、国と自治体が役割を分担しながら社会統合を推進するための方向性を具体的に検討する契機となった。今後、関係団体との連携を通じて、在住外国人が地域社会に円滑に適応できる施策のあり方を探っていく。



意見交換の様子



2団体の代表と

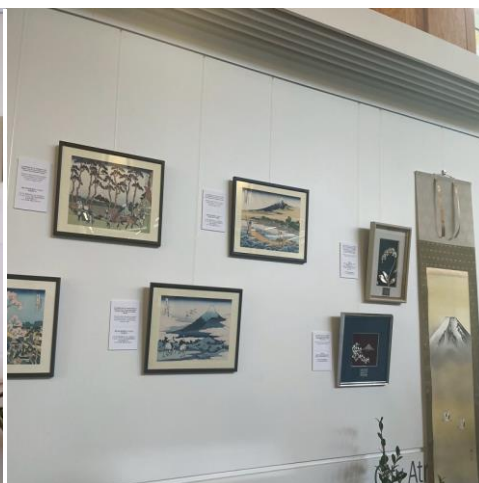
③ ノースバンクーバー市表敬訪問

■これまでの交流の展示

ノースバンクーバー市役所のアトリウムには、葛飾北斎の富嶽三十六景の版画や千葉常胤公の騎馬像など、これまでの千葉市との交流で贈られた記念品が展示されていた。



姉妹都市提携の歴史展示



これまで千葉市から贈った記念品

■友好関係確認書の調印式

ノースバンクーバー市役所のアトリウムで、ノースバンクーバー市職員をはじめ、市議会議員などの関係者が出席する中、ノースバンクーバー市と千葉市の姉妹都市提携55周年を記念して、友好関係確認書の調印式が行われた。



神谷市長の挨拶



会場(アトリウム)の様子



友好関係確認書の調印



友好関係確認書の調印



友好関係確認書調印後

【友好関係確認書(英語・日本語)】



REAFFIRMATION OF THE SISTER CITY AGREEMENT BETWEEN THE CITY OF NORTH VANCOUVER, CANADA AND THE CITY OF CHIBA, JAPAN

On January 1st, 1970, the City of North Vancouver, Canada, and the City of Chiba, Japan (hereinafter referred to as the "Two Cities") officially affiliated as sister cities with the goal of encouraging mutual cultural and economic exchanges, based on deepening the friendship and understanding between the Two Cities. The sister city alliance has since contributed to the furtherance of goodwill between Canada and Japan, thus making a significant contribution to the prosperity and the peace of the world.

Since 1970, the Two Cities and their citizens have fostered and nurtured a fifty-five-year long friendship in many ways, most notably through mutual youth exchanges, as well as in educational and cultural fields.

On the significant occasion that is the 55th anniversary of the sister city agreement, the Two Cities will aim to use the accomplishments achieved thus far as a stepping stone for the development of further exchange, in addition to renewing the promotion of goodwill and prosperity between the countries of Canada and Japan.

The purpose of this Reaffirmation of Friendship Agreement is to recognize the importance of the international cooperation and mutual understanding that exists between the Two Cities, as well as to reaffirm and promote their friendship.

1. **Cultural Exchange** – The Two Cities will encourage participation in cultural events, artistic performances and historical preservation activities as a means of celebrating and enriching their bond.
2. **Education** – The Two Cities will facilitate student exchange programmes and foster the meaningful alliance between citizens, particularly the youth.
3. **Economic Development** – The Two Cities will promote staff-to-staff knowledge sharing on shared economic areas of focus including life sciences, port industries, and the movement of goods.
4. **Tourism** – The Two Cities will learn from one another and share knowledge in construction and maintenance as cities which support tourism.
5. **Technology and Innovation** – The Two Cities will exchange knowledge on urban construction, sustainability and innovation-driven projects, such as urban waterfront revitalization, rapid transit and prefabricated housing.

6. **Municipal Governance and Best Practices** – The Two Cities will share policies, administrative and service strategies, as well as solutions to common urban challenges that prioritize building an inclusive and multicultural community.

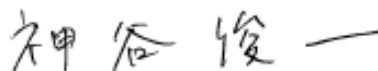
This Reaffirmation of Friendship Agreement is a statement of intent and does not create legally binding obligations between the Two Cities. Any disputes or differences arising from this Agreement shall be resolved amicably through consultation and dialogue. The Agreement may be amended by mutual written consent of the Two Cities.

On this 23rd day of October 2025, in the City of North Vancouver, both cities agree to honour this pledge by signing this Agreement in both English and Japanese, with both versions being equally authentic.

CITY OF NORTH VANCOUVER

CITY OF CHIBA


Linda Buchanan
Mayor


Kamiya Shunichi
Mayor

Witnesses:

CITY OF NORTH VANCOUVER

CITY OF CHIBA


Tony Valente
North Vancouver City Councillor


Matsuzaka Yoshinori
Chairperson of the Chiba City Assembly



日本国 千葉市・カナダ ノースバンクーバー市



姉妹都市提携 55 周年に係る友好関係確認書

1970 年 1 月 1 日、日本国・千葉市とカナダ・ノースバンクーバー市（以下、両市という。）は、深い理解と友情の上にたって、相互に文化、経済等の交流を盛んにし、両市の友好を深め、さらに日本国・カナダ両国の親善を促進し、もって、世界の平和と繁栄に貢献することを目的として、姉妹都市関係を提携した。

以降、両市及び両市の市民は、55 年間の長きにわたり続く青少年の相互派遣をはじめ、文化や教育など様々な分野において交流を行い、友好関係を育んできた。

この度、姉妹都市提携 55 周年という記念すべき大きな節目を迎えるにあたり、両市はこれまで培われてきた成果を礎として、更なる交流の発展を目指すとともに、日本国とカナダ両国間の親善と友好の促進に努めることを確認する。

本確認書は、両市の国際協力と相互理解の重要性を認識するとともに、両市の姉妹都市としての友好関係を再確認し、促進することを目的としている。

1. **文化交流** - 両市は、これまでの絆を祝福し、豊かにする手段として、文化的行事、芸術的公演、歴史的保存活動への参加を奨励する。
2. **教育** - 両市は、学生交流プログラムを促進し、市民間、特に青少年間の友好の絆を育む。
3. **経済開発** - 両市は、生命科学、港湾産業、物資輸送など、共有する経済分野におけるスタッフ間の知識共有を促進する。
4. **観光** - 両市は、観光を支援する都市の建設と維持について、互いに学び、知識を共有する。
5. **テクノロジーとイノベーション** - 両市は、都市建設、持続可能性、都市ウォーターフロント活性化、高速輸送、プレハブ住宅などのイノベーション主導型プロジェクトに関する知識を交換する。

6. 自治体のガバナンスとベストプラクティス - 両市は、政策、行政・サービス戦略、共通の都市課題に対する解決策を共有し、包括的で多文化的なコミュニティの構築を再優先事項とする。

本確認書は意思表示であり、両市間に法的拘束力のある義務を生じさせるものではない。本確認書に基づき生じた紛争や相違は、協議と対話を通じて友好的に解決されるものとする。本確認書は、両市の書面による合意により変更することができる。

2025年10月23日にノースバンクーバー市において、日本語と英語により署名された確認書は、両版ともに等しく正文である。

千葉市

ノースバンクーバー市

神谷 俊一

神谷 俊一
市長

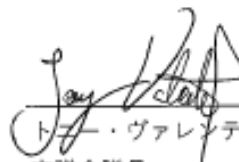


リンダ・ブキャナン
市長

立会人

松坂 吉則

松坂 吉則
市議会議員



トニー・ヴァレンテ
市議会議員

④ 答礼レセプション(千葉市主催)

ブキャナン市長をはじめとした市の関係者、市議会議員、ノースショアライオンズクラブ青少年交流委員会、在バンクーバー日本国総領事館の高橋総領事、日本カナダ商工会議所、ハンズワース・セカンダリースクールや青少年交流の参加者等に出席いただき、長年にわたる両市の交流の歴史を振り返るとともに、今後のさらなる友好促進について交流を深めた。

神谷市長からは、ノースバンクーバー市による温かい歓迎への感謝を述べるとともに、両市が港を有し、それぞれバンクーバーや東京という大都市の近郊に位置しながら、独自の魅力と個性を活かして発展してきた都市であることを紹介した。これに対し、ブキャナン市長からは、55年にわたる相互理解と文化交流の意義に触れるとともに、地域に根づくクラフトビール文化の広がりについて言及があり、和やかな雰囲気の中で両市の絆を改めて確認することができた。

その後、神谷市長からは、出席者に対し千葉市の概要や産業、観光振興の取組について紹介を行い、本市への理解を深めていただく機会となった。

また、同時期にノースバンクーバー市を訪問されたジャズピアニスト大原保人氏によるピアノ演奏が行われ、心地よい音楽が会場を包み、参加者同士の交流をより温かいものとした。

記念品の交換では、本市は大賀ハスの金箔格子絵を、ノースバンクーバー市からは、強さと調和を象徴するハナミズキと、幸運を象徴するハチドリを描いた木製の壁飾りが贈られた。

レセプションでは、両市の姉妹都市提携のきっかけとなったライオンズクラブ(ノースショアライオンズ青少年交流委員会と千葉中央ライオンズクラブ)が親交を深めたほか、青少年交流事業で千葉市を訪れているハンズワース・セカンダリースクールの関係者や、過去の参加生徒・引率者も出席されたため、本市で同事業を実施している(公財)千葉市国際交流協会の津村理事長とこれまでの取組の成果や今後の展開について意見交換を行い、今後の継続的な交流と協力関係の深化につながる機会となった。

また、日本カナダ商工会議所からは、カナダ国内の小売店やレストラン関係者が日本の食に高い関心を寄せていることから、千葉市産の食材を紹介するフェアなどの開催を検討してはどうかとの提案も受けた。



高橋総領事の挨拶



青少年交流参加者との再会



両市のライオンズクラブによる交流



神谷市長によるプレゼンテーション



千葉市国際交流協会 津村理事長の挨拶



大原保人氏によるピアノ演奏



ブキャナン市長、市議会議員、高橋総領事と

《6日目》10月24日(金)～10月25日(土)

午後の便で、帰国の途についた。

以上